



The 20th Japanese Society for Home Hemodialysis

第20回在宅血液透析研究会

ランチョンセミナー4

在宅血液透析患者の見守り

～HHD見守り支援システムの詳細～

日時・会場

2017年11月12日(日) 11:50～12:50

第2会場 ワークピア横浜3F かもめ 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町24-1

座長

若井 陽希 先生

医療法人社団麗星会理事長 品川ガーデンクリニック 院長

演者

高野 秀雄 先生

医療法人雄愛会 高野クリニック 院長

共催：第20回在宅血液透析研究会 / ニプロ株式会社

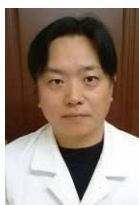


The 20th Japanese Society for Home Hemodialysis

第20回在宅血液透析研究会

ランチョンセミナー4

在宅血液透析患者の見守り ～HHD見守り支援システムの詳細～



高野 秀雄 先生

医療法人雄愛会 高野クリニック 院長

ご
略
歴

1995 年 東海大学医学部付属病院 研修医
1997 年 4 月 東海大学医学部付属病院 腎内分泌代謝内科学教室入局
東海大学医学部内科学系大学院入学
2001 年 3 月 同大学院卒業

2001 年 4 月 東名厚木病院出向 透析センター長
2003 年 4 月 小澤病院出向 透析センター長
2005 年 4 月 高野クリニック開院 院長

在宅血液透析療法（以下 HHD）は、短時間頻回透析や長時間透析など患者のライフスタイルや全身状態において様々な透析方法が、回数制限なく選択可能であり、多くの臨床データより患者の長期生存に寄与する事が証明されている。時間的制約も軽減され社会生活にも適応しやすく、患者にとっての利点は多い。しかしながら現状、全国で HHD 患者数は 550 名程である。全腎協が行った全国の透析患者に於けるアンケート調査（2011 年全腎協調べ）によれば、HHD を希望する患者は全体の 6.2% で、希望しない患者の理由としては、透析中のトラブルへの対応不安（80.6%）、自己管理の大変さ（79.5%）、介助者の不在（家族の不安を含む）（69.5%）となっており、HHD の有効性は理解したとしても決断できない理由として、医療従事者が不在である環境で、自身が受ける教育のみで HHD を実行するのが不安である患者が多い様子が垣間見える。このような背景を転換させる一助となる事を目的とし、ICT を用いた HHD 患者の後方支援システムの設計を行ってきた。現在複数の医療機関で実働されている。本システムは、患者バイタルやコンソールの作動状況をリアルタイムで見守り、それらデータに異常を検知した場合、自動でアラートを発信し、速やかに患者、医療従事者間でTV電話によるコミュニケーションを行い、事態に対処する仕組みである。本システムの基盤となった 2008 年経済産業地域見守り支援システム実証事業についても詳述させていただく。